〔II〕 インフルエンザによる学級閉鎖について

天野菊三郎　　戸田　安士　　今治富美子

I　はじめに

毎年冬になるとインフルエンザの流行とそれに伴なう学校閉鎖のことがマスコミをにぎわす。とくに今年は「ホンコンかぜ」「ソ連かぜ」の二重流行で日本全国おおわらわであった。本校もこの例にもれず，インフルエンザが流行したため1月25日から2月10日までの17日間に学年・学級閉鎖を含む必要な防疫対策を実施した。しかも，名古屋で最初に本校の生徒からAH_1インフルエンザウィルス（ソ連かぜ）が検出されたので，しばらくは新聞紙上に本校の名前が連載された。今回の本校のインフルエンザの流行とそれによる学級閉鎖に関して生徒によるアンケートおよびその他の資料にもとずいて，その経過をまとめ反省ならびに今後の予防対策について述べてみたいと思う。

II　インフルエンザの流行状況および学級閉鎖の経過

表－Iに示すように欠席者数は，1月23日から激増ている。

すなわち

1月23日　中2A－欠席者6名
　　中3A－欠席者10名
　　中3B－欠席者7名，早退者5名
1月24日　中2A－欠席者13名
　　中2B－欠席者5名（1名は虫垂炎）
　　中3A－欠席者8名
　　中3B－欠席者16名

になった。そこでこの日，校長，保健主事，校医と相談の結果，直ちに中2・中3の2学年4クラスを3日間の学級閉鎖にした。この2学年は教室が同じ階で並んでいるためまとめて行なった。これを発端として以下，高1A→中1→高1B・C→高2B→高2A・Cの順に学年・学級閉鎖を行なった。欠席者と学年・学級閉鎖の状況については，表－Iに示した通りである。

表－I　欠席者数と学年・学級閉鎖状況

月　日	1/17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	2/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
曜日／クラス	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	計
中3A	0	4	0	1	1		10	8				1		1	1	2	2	1	1		0	0	0	0	1	34
中3B	0	0	0	0	0		7	16				2		0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	25
中2A	0	0	0	0	1		6	13				8		6	3	1	1	1	0		0	0	0	0	0	40
中2B	2	1	1	1	2		3	5				6		3	0	0	0	0	1		1	0	0	0	0	26
中1A	1	1	0	0	0		0	1	1	2	9	12				2	2	1	0		0	0	0	0	0	32
中1B	0	0	1	1	1		0	0	1	2	3	6				6	2	1	1		0	1	1	0	0	27
計	3	6	2	3	5		26	43	2	4	12	35		10	4	11	7	4	3		1	1	1	0	1	184
高1A	0	1	0	1	0		1	1	4	6	9				11		3	1	1		2	1	0	0	0	42
高1B	2	2	1	1	1		0	0	2	0	2	6		5				7	3		1	0	0	0	0	33
高1C	1	0	0	0	0		0	1	1	3	3	2		6				7	7		1	0	4	5	1	42
高2A	0	1	1	0	1		2	1	1	2	2	2		3	3	2	3	3	2		16				1	46
高2B	1	0	1	0	2		0	0	1	1	1	6		6	4	16					2	1	0	3	1	45
高2C	1	0	0	3	3		1	1	1	1	2	3		4	4	4	0	3	5		13				1	50
高3A	3	3	5	6	6		1	17	2	2	12	8		18	9	——	——	3	5		4					104
高3B	2	3	8	5	6		3	16	5	8	4	9		15	7	——	——	4	5		4					104
高3C	6	6	5	9	8		3	5	5	4	5	12		13	5	——	——	8	2		5					101
計	16	16	21	25	27		11	42	22	27	40	48		70	43	22	6	36	30		48	2	4	8	4	568

注：　は学年・学級閉鎖

表－Ⅱ　アンケートにあらわれた発病状況

月日	1/13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	2/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
曜日／クラス	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
中3A					1	1	3	2	⑨	2	5	2	2																
中3B			1	1			3	3	4	6	⑪	1																	
中2A	1							1	4	3	⑨	5	3	3															
中2B					1			3	2	1	3	2	⑤	3															
中1A								2		1		1	3	4	⑥	4	5	1		4									
中1B												1	2	3	5	⑨	4	1		2									
計	1		1	1	2	1	6	11	19	13	28	12	15	13	11	13	9	2		6									
高1A												2	1	3	4	⑤	1		1										
高1B	1		0			2	1	1					2	0	1	⑥	4	3	3	1	2								
高1C			1		1			1				1	1	1	3	3	2	⑦	1	3									
高2A			1									2			1		3	3		4	1	3	3	4		1			
高2B			1					1			1		1	3	1	6	2	2	3	1		2							
高2C	1	1	1	1	1		2					1			1	2	2	1	1	3	1	2	3	2		1	2		
計	2	1	4	1	2	2	3	3	0	0	1	5	5	7	11	17	13	16	8	12	4	7	6	6		2	2		

注：　は学年・学級閉鎖

なお，高3については学年末および入試の時期で，正確な欠席理由の把握がむずかしいため，期末テストを2日間延期する措置をとった。

中2・中3の学年閉鎖の初日（1月25日）に，天白区，千種区居住の発病生徒の中から11名を選び，うがい水，血液検査を千種保健所で実施した。この結果11名中7名に「AH_1型ウィルス」が検出され，AH_1型ウィルスによるインフルエンザと決定した。

Ⅲ　アンケート調査について

学年・学級閉鎖が終った段階で直ちに生徒にアンケート調査を行った。

まず「1月15日から現在まで（1月28日から2月10日）にかぜをひいたか」という質問に対しては中学が87%，高校が94%の該当者があった。

「いつかぜに気付きましたか」という質問には，54%が解答をした。その結果が表－Ⅱである。この表から見ると，中3Aからはじまり，中3B，中2A→中2B→中1の順に発病日が下って来ることが解る。しかし，高校に関しては，一定の傾向がみられなかった。

「どのような症状であったか」という質問に対しては表－Ⅲのような結果になっている。

この結果から見ると，

(5)　せきがでる
(1)　のどが痛い
(12)　からだがだるい
(6)　寒けがする

などの症状が半数以上にみられる。

発熱については，中学生では中1の場合有熱期間中平均38℃～39℃のものが多い。また，約30%が最高40℃以上の高熱を出した。（中2・中3については，資料がない）高校生については，有熱期間中平均37℃～38℃と中学生より低くなっているが，約10%は最高39℃以上の高熱を出している。

表－Ⅲ　主な症状について

項目	訴えの該当例数 中学 名	(%)	訴えの該当例数 高校 名	(%)
(1)　のどが痛い	122	(74)	112	(81)
(2)　のどがかゆい	16	(10)	20	(14)
(3)　はなみずがでる	68	(41)	90	(65)
(4)　はながつまる	61	(37)	67	(48)
(5)　せきがでる	138	(84)	113	(82)
(6)　さむけがする	101	(61)	82	(60)
(7)　ふしぶしが痛い	49	(30)	47	(34)
(8)　腹が痛い	24	(15)	42	(30)
(9)　下痢をする	9	(7)	14	(10)
(10)　食欲がない	42	(25)	24	(18)
(11)　はきけがする	14	(8)	22	(16)
(12)　からだがだるい	110	(67)	98	(72)
(13)　その他（頭痛）	8	(5)	10	(7)

（　　）の内は該当者百分率

「よくなるまでに何日かかりましたか」という質問に対しては，表－Ⅳの通りである。3日～5日が多く，74%をしめている。このことから今回3日間の学級閉

表－Ⅳ　罹　病　日　数

日　数	中　学	高　校
	名　%	名　%
0.5	0	3 (3)
1	5 (6)	9 (9)
2	6 (7)	10 (11)
3	25 (29)	25 (25)
4	23 (27)	18 (19)
5	14 (16)	13 (14)
6	3 (3)	0
7	6 (7)	12 (13)
その他	4 (5)	5 (5)
計	86 (100)	95 (100)

(　　) の内は該当者百分率

表－Ⅴ　発病者の生活状況

項　　目	該　当　数	
	中　学	高　校
	名　%	名　%
(1) 睡民不足	60 (29)	65 (26)
(2) 朝食ぬき	18 (9)	21 (8)
(3) からだの調子が悪かった	23 (11)	35 (15)
(4) むりをした	19 (9)	33 (13)
(5) さむさにあたった	60 (29)	54 (22)
(6) うがいをした	27 (13)	41 (16)
計	207 (100)	249 (100)

(　　) の内は該当者百分率

鎖が適当であったかどうか検討を要すると思う。たとえば，表－Ⅰの中で，3日間の学級閉鎖終了後も11名の欠席者があったため，更に1日学級閉鎖を余儀なくされた高1Aの例がある。

このことから考えれば3日間は短かすぎた疑いがもたれる。

最後に，「あなたはかぜをひくまえにどんな生活をしていましたか」という質問に対して表－Ⅴのような結果がでた。

(1) 睡眠不足が中・高とも多い。また，

(3) からだの調子が悪かったが　高校生で15%とやや多いようである。反対に，(6) うがいをしたについては高校生の方がやや多い。このことは，インフルエンザ流行時にうがいが必ずしも励行されていないことを示すとともに，うがいの予防効果についても検討を要することを物語っている。

以上がアンケートの結果である。

Ⅳ おわりに

本校のインフルエンザは，AH_1 インフルエンザウィルスによるもので，本校だけでなく名古屋市において確認された最初の流行であった。症状に幸い比較的軽く，罹病日数も比較的短いように思われた。しかも，結果的には，全校生徒（高3を除く）の90%程度が罹患し，約1週間で全校に拡がったことを明らかにすることができた。それに対する措置として3日ないし4日間の学年・学級閉鎖をおこなったが，学級によっては，3日間はやや短かすぎた感があった。

幸い，流感後の重大な合併ないし後遺症はみられなかった。